

考古学講座 古代日本の「西の都」を取り巻く世界

●期日・講師・内容 (全5回)

期日	内容	講師
9月10日(土)	西の守り「雷山神籠石と怡土城」	平尾和久さん (糸島市文化課)
11月23日(祝・水)	外交の最前線「鴻臚館」跡	菅波正人さん (福岡市埋蔵文化財課)
12月3日(土)	老司瓦窯跡の発掘調査と観世音寺	榎本義嗣さん (福岡市埋蔵文化財センター)
1月22日(日)	糟屋の長官・春米連廣國と「阿恵官衙遺跡」	西垣彰博さん (粕屋町教育委員会社会教育課)
2月19日(日)	筑後の拠点「上岩田遺跡」と「小郡官衙遺跡」	山崎頼人さん (小郡市教育委員会文化財課)

●時間 午後2時～4時

●会場 心のふるさと館M2階 講座学習室

●定員 80人 (申込多数の場合は抽選)

●受講料 無料

●申込方法 ◇申込フォーム◇はがき◇FAX◇
心のふるさと館総合案内窓口 (氏名・年齢・住所・電話番号を記入)

●申込期限 8月31日(水) (必着)

●申し込みと問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2206 FAX(558)2207



申込フォーム

あけてみよう！歴史のとびら 調査担当者が語る！大野城発掘物語

155

700年前の水田 (薬師の森遺跡の発掘調査)

平成20年、乙金3丁目で平安時代から鎌倉時代の水田跡が発見されました。遺跡の名は薬師の森遺跡。現在のイオン乙金周辺に広がる遺跡です。水田跡は、あぜによって39区画に分かれ、総面積は約3300㎡に及ぶ大規模なものでした。現在の水田と違い、1枚1枚の水田の形はいびつで、面積もバラバラ。不格好にも見えますが、よく観察すると、細かな地形を計算し、全ての区画に水がスムーズに入るように工夫されていました。

この調査で印象深いのは、水田の上に厚く砂が覆っていた点です。その厚さは30cm～1m。激しい洪水に襲われたことを物語っています。また、水田面には、当時の人々の足跡も砂に覆われた状態で残っており、まるで洪水によって700年間も時間が止まっていたようでした。

その水害が何年何月に起きたものか確かな記録はありません。きつと、鎌倉時代のある夏の日、この地方を豪雨が襲ったのでしょうか。雷鳴が響

く、四王寺山から流れ出た濁流と大量の土砂が、緑鮮やかな水田地帯を飲み込んだと想像されます。発掘調査によって、大規模な水田と水害の爪跡を知ることになりましたが、この水田を使っていた人々はどうなったのでしょうか。

実は水田のすぐ近くでは、同じ時代の集落の跡も発見されています。その集落は、洪水の後にも変わることなく繁栄を続け、江戸時代の乙金村、そして現在の乙金区につながったと考えられています。

今も昔も、人々は災害と闘い、克服しながら生活していると実感させられます。



水田跡の様子



足跡と現代人の足

●問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2206